



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	中村 良		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 5		
講義室	1302	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J 〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイディアを革新的かつ創造的に結合し、リスクをとりながら、結果にむすびつけることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協同力・牽引力〕集团的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M 〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B 1 自己啓発（5％） C 1 倫理的思考・社会認識（5％） E 1 学識と専門技能（25％） I 1 理解・分析と読解（5％） J 2 創造的思考（10％） K 1 ライティング・コミュニケーション（10％） K 2 オーラル・コミュニケーション（10％） L 1 チームワーク（20％） M 1 総合的・応用的学修（10％）		
教員の実務経験	■ありません。		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。授業形態は、演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

	■キーワード 会社、企業、契約、不法行為、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、企業不祥事						
授業の趣旨	■副題 危機管理の法的問題に関するビジネス法学的研究 ■授業の目的 危機管理と法学、特にビジネス法学に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①学識・専門技能、②協働力・牽引力、③創造的挑戦力・達成力、④表現力・対話力、⑤省察力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 危機管理学部での4年間の学びの集大成を卒業論文にまとめます。						
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。 ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる。（第1回） ・問題点や論点を探究し、自らの見解を持つことができる（第2回～第8回） ・問題意識を持ち、探究することができる（第2回～第8回） ■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を卒業論文にまとめ、適切に表現することができる。 ・自らの見解を証明するための文献や資料収集することができる（第9回～第15回） ・文献の読み方や資料の解釈などを修得する（第9回～第15回）						
成績評価方法	■成績評価手段 実技・パフォーマンス各自2回（25%）：適用ルーブリック：E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）様々な社会上の憲法問題を認識し、その中から自らの問題意識をもち、その問題の構造を理解し、状況を把握できているか、その問題に対して卒論に向けて目的を持ち、いかに内容を展開させていくか、アイデンティティーを確立し、条文を解釈し、他者との議論を通じて自らの見解を確立できているか評価します。 （フィードバック）授業時間内に解説を実施し、テーマの適切性、仮説の妥当性について講評します。 ■授業参加度15回（25%）：適用ルーブリック：E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）他者の研究内容を通じてまず自らの知識を取り出し、活用しているか、またその研究の結論が妥当であるかどうか、対立点の発見や解消、最適化を議論を通じてなされているか、評価します。他者の研究内容は自分には関係ないという姿勢ではなく、全員で研究内容について検討し、議論しているか、評価します。 （フィードバック）各自の意見が妥当なものか、議論が適切になされているか、参加しているかの態度について講評します。 ■卒業論文1回（50%）E1・J1・K1・B1・C1・I1・M1 （評価方法）自らの問題意識（論点）に対して、妥当な結論が導き出されているか、その結論に到達するまでの論理が妥当であるか、論文で取り上げた各内容についてしっかり理解できているかどうか評価します。 （フィードバック）ポータルサイトを通じて、卒業論文の講評を行います。また、サブゼミの時間を作り、その中で全体的な講評も行います。						
履修条件	■ありません。						
履修上の注意点	■積極的に議論に参加して下さい。						
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要 （ガイダンス）授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （イントロダクション）研究方法（E1・J1）、プレゼンの手法（K1・M1）、議論の方法（L1・B1） ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 論文執筆に向けて ②授業概要 ゼミナールⅠ～Ⅲまでに構築したテーマの概要、目次、各章のポイント、学説や判例</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要 （ガイダンス）授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （イントロダクション）研究方法（E1・J1）、プレゼンの手法（K1・M1）、議論の方法（L1・B1） ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。	2	①授業テーマ 論文執筆に向けて ②授業概要 ゼミナールⅠ～Ⅲまでに構築したテーマの概要、目次、各章のポイント、学説や判例
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要 （ガイダンス）授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （イントロダクション）研究方法（E1・J1）、プレゼンの手法（K1・M1）、議論の方法（L1・B1） ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。						
2	①授業テーマ 論文執筆に向けて ②授業概要 ゼミナールⅠ～Ⅲまでに構築したテーマの概要、目次、各章のポイント、学説や判例						

	などを文章にし、論文執筆の準備に入ります。そこで、まずタイトルのつけ方、書式、文章表現、引用符のつけ方、引用文献の表記など論文執筆の基本となることを指導します（E1・I1）。 ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。
3	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表① ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
4	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表② ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
5	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表③ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
6	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表④ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
7	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑤ ②授業概要

	論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
8	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑥ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
9	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑦ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
10	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑧ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
11	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑨ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。

12	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑩ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
13	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑪ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
14	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑫ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
15	①授業テーマ 卒業論文の完成と提出 ②授業概要 ゼミナールⅠから始めた卒業論文の作成、執筆活動について各自で確認し、提出してもらいます（E1・F1・G1・K1・B1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（120分） 自ら執筆した卒業論文の内容を読み返し、誤字脱字などのを確認する。 ④復習（120分） ゼミナールⅠ～Ⅳを通じて構築してきた卒業論文の作成工程をもう一度確認し、論理構成、論理的文章を書き、資料を検索し精査してきたことを振り返る。
関連科目	■「企業組織と法」（RMGT2352）、「企業統治と法」（RMGT2353）、「民事法Ⅰ」（RMGT2341）、「民事法Ⅱ」（RMGT2342）、「民事法Ⅲ」（RMGT2343）、「民事手続と法Ⅰ」（RMGT2371）、「民事手続と法Ⅱ」（RMGT2372）、「犯罪と法」（RMGT2331）、「企業コンプライアンス論」（RMGT3307）、「特殊講義（経済法）」（RMGT2392）
教科書	■配布資料および判例六法を毎回持参して下さい。
参考書・参考URL	■ゼミナールにおいて適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■オフィスアワー 改めてご連絡します。メールで質問される場合は、nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp までお願いします。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティー25%：グローバルセキュリティー25%：

情報セキュリティ25%
■危機管理学と法学とのバランス
危機管理学50%：法学50%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.